

R2～R5

鹿児島学習定着度調査

結果分析・考察

とその対策

【平均正答率等】

令和5年度 学力向上全体計画

学力向上委員会 令和5年度版(最終版) 令和5年3月31日

NRT、鹿児島学習定着度調査、全国学力・学習状況調査に向けた具体策

(1) いっ
 ◆ 正課授業・・・国語(週5時間)担任指導
 社会(週2～3時間)担任指導
 算数(週5時間)担任指導 *少人数指導(学年運用)
 理科(週3時間)専科指導

◆ 朝の学習

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:30	移動					
8:30～8:45 (15)	①全朝 ②学朝 ③⑤チャ ④音朝	仲良し 読書 (20)	チャレ ンジタ イム (20)	仲良し 読書 (20)	仲良し 読書 (20)	仲良し 読書 (20)

【改善案】

曜日	月	火	水	木	金	土
8:25～8:40 (15)	①全校朝会 /学年朝会 ②③仲良し読書 ④ハート フル	ベーシ ック タイム (15)	仲良し 読書 (15)	ベーシ ック タイム (15)	仲良し 読書 (15)	朝なし 1校時 パワー アップ タイム (45)

R4～継続 *火・木曜日のベーシックタイム→Keep主に漢字、計算、定義等
 R4～継続 *土曜日1校時のパワーアップタイム→Output主に問題練習

【効果的な活用方法】
 ※基礎基本の定着を図る場合
 →アナログを活用した学習
 ※定着の確認、習熟を図る場合
 →デジタルを活用した学習

◆ 土曜授業の学力補充指導(第2土曜日:年9回 3時間のうち1時間)
 R4～継続 *1校時に全学年で実施+3年生以上でデジタルドリル活用
 R5～新設 *全学年で「ナビマ」「タブレットドリル」と組み合わせた活用

◆ 長期休業中の希望者への個別の指導
 *職員研修→全学級で共通指導(理科教室、絵画教室、作文教室など)をして出品する。

R4～継続 *タブレット端末持ち帰り(調べ学習とデジタルドリル) 継続

◎ 家庭、地域との連携(家庭学習の確保と習慣化)
 R3～家庭教育力アップ共通実践事項 ノーメディアタイム、早寝早起き朝ごはんの取組によって家庭の教育環境の改善・向上を目指す。

既存: 家庭学習目安時間: 学年×10+20分確保と目標達成率の把握
 学校評価Googleフォームによるアンケート集約→学級PTAでの協議、結果データのフィードバック→保護者の理解と協力を得るシステム

ノーメディアタイムの取組(中・小・小中)

○小・中学校家庭学習の目安時間

○学年×10+30分(読書除く)

1年生40分+20分 2年生50分+10分
 3年生60分 4年生70分
 5年生80分 6年生90分
 ※中1:100分 中2:110分 中3:120分

家庭学習60・90(ろくまる・きゅうまる)運動・・・県P連の取組

具体的内容、イメージ等

◆小学校専科指導加配(1)
 ・理科専科(4,5,6年)
 ◆定数専科(2)
 ・音楽専科(3～6年)
 ・R4 英語専科(3～6年)

※ R5 新設:算数科少人数指導3,4年(3クラス4展開)+デジタルドリル

◆学習指導



専科:理科専科(4,5,6年)
 音楽専科(3～6年、2の2)
 英語専科(3～6年)

R5年度:3,4年算数少人数指導

学力補充指導:
 ベーシックタイム:火・木週2回(15分)
 パワーアップタイム・第2土曜日(45分)
 ※アナログとデジタルの使い分け方
 知識・技能、記憶することは、アナログ
 の指導(手書き、口を使う)で行う。

長期休業中タブレット端末の持ち帰り
 4年以上(調べ学習とドリル課題)

R3.7月導入
 家庭教育力アップ共通実践事項
 (ノーメディアタイム、早寝早起き朝ごはん)
 ※家庭学習目安時間の設定
 学年×10+20分の確保
 ※平日のメディア使用2時間以上60%が課題

令和5年度 学力向上全体計画

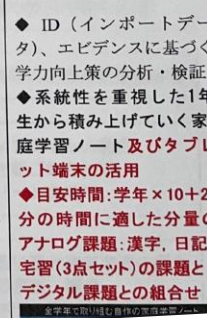
- (2) 何を ※Web問題、学習プリント問題 R4.1月～デジタルドリル導入
- 国語（読こと、書くこと、計こと・量こと）→過去問題、アシストシート等（漢字、文法）→これまでに習った漢字、文法問題
 - 社会（学習の要点まとめ、自作問題による練習）
 - 算数（テスト結果に基づく個に応じた問題練習、ドリル）
 - 理科（学習の要点まとめ、自作問題による練習）
 - * 昨年度までの鹿学定過去問題（12月中旬実施予定）
- R4～継続：デジタルドリルの有効かつ効果的な活用方法
アナログ学習指導（計算ドリル帳、漢字ドリル帳）とデジタル学習指導の有効な組合せ方等について実践を通して検証（中学年以上）
- R5～新規：低学年におけるデジタルドリルの効果的な活用法の検証



- (3) どのように（指導方法、分担等）
- 正課授業（国、社、算、理、英：担任及び専科による指導）
 - R4～継続：英語専科新設→ヘッドセット、学習者用デジタル教科書活用
 - R5～新規：3、4年算数教科書人数指導+タブレット端末の活用
 - R5～新規：算数科以外の教科での反転授業→家庭学習課題
 - 朝学習：ベーシックタイム（担任、専科などTT体制）
 - R4～継続：毎週火曜日 15分×35回＝525分
 - R4～継続：毎週木曜日 15分×35回＝525分 計1050分
 - 土曜日1校時：パワーアップタイム（担任、専科などTT体制）
 - R4～継続：第2土曜日 45分×9回＝405分 計405分
 - *アナログとデジタルを組み合わせた指導方法（例）
 - 少人数指導、TT指導+デジタルドリル活用の組合せ
 - 家庭学習ノートの復習→デジタルドリル活用の展開
 - テストプリントの復習→デジタルドリル活用の展開
 - デジタルドリル問題の自己選択 など



- (4) その他
- R3～○ 学力向上委員会
学期1回から職員会議後に月1回に変更
→指導状況とテスト結果報告、家庭学習課題内容等の情報交換
学力検査結果の分析及び今後の対策等の協議、共通理解等
- R3～○ 学校における教育活動、教育環境、掲示等の充実
→家庭学習ノートの全学年掲示→模範的な家庭学習ノートを校長室前に常設展示。チーム学校で低中高学年の系統的な指導をそろえて取り組んでいることを保護者、地域、来校者等に示す。
※教職員はR5教育課程に家庭学習の模範的例を入れて共通理解する。保護者へは第1回PTAの際に学級経営方針とともに各学年の家庭学習レベルを説明する。
- 継続○ 学習のしつけ（発表型、挙手の仕方、聞き方、姿勢など）の徹底
授業の基盤となる学習のしつけを学期始めに徹底する週間を設定
- 継続○ 家庭学習ノートの様式の見直し※煩雑にならず使い勝手がよいもの
→今年度の学力の実態に基づき、定着率の低い知識・理解事項については、年間を通じて積み上げられるような様式に見直す。
(例)ローマ字が書けない→毎日ローマ字を書くための野線枠を追加
→系統性を踏まえた様式に見直す。
(例)保護者の見届け枠、使った漢字数、友だちのよさを書く枠
ノーマediaタイム、早寝早起き朝ごはん等の振り返り枠



R3～2年以上で家庭学習ノートを導入
※アナログによる家庭学習課題にする
R4.1月タブレットドリル(本校)導入
(3年以上で活用)
R4.6月ナビマ導入(全学年)
R5.4月低学年での活用スタート

授業改善：アナログとデジタルの融合
補充指導：
ベーシックタイム：火・木週2回(15分)
パワーアップタイム・第2土曜日(45分)
※アナログとデジタルの使い分け方

R3～学力向上委員会(月1回)
家庭学習充実のためのノート掲示
教育課程にも模範的な家庭学習ノート例を入れて、全学年の家庭学習の質を高める。
家庭学習ノートの様式検討(ローマ字野線、短文づくり、友だちのよさ等)

「確かな学力」を育むこれからの学習指導の構築
～アナログとデジタルによる学習指導の融合を目指して～

すべての教科領域で情報活用能力を基盤にして育成する

（授業以外）
補充指導

関連

授業改善

付け

家庭学習

関連付け

関連付け

デジタル学習指導（学習者用デジタル教科書、タブレット端末、デジタルドリル、AI教材、ロイロノート、テレビ会議システム等）

アナログ学習指導（紙の教科書、ドリル、教科用ノート、家庭学習ノート等）

学力定着のイメージ(※①②③すべてがそろおう)

つくる

とりだす

①input

③output

新皮質

しまう

旧皮質

②keep

授業改善

問題練習

学校での補充指導(量と質)
+
家庭学習(量と質)



- (1) いっ
 ○ 正課授業・・・国語（週5時間）
 社会（週4時間）*h27～算数科は3年生以上
 算数（週5時間）**習熟度別少人数指導継続**
 理科（週3時間）*理科は3年生以上で専科制

◎ 朝の学習

曜日	月	火	水	木	金
8:25～8:30	移動	学習夕	移動	学習夕	移動
8:30～8:35	全校朝会	2・3週 黙読タイム	読書 (職朝)	134週 ことばタイム	(職朝) 朝自習
8:35～8:40	等	係活動	読み聞かせ	仲保健2.5	→国社 算理
8:40～8:45		委員会			

- h29～*火の学習タイム→算数タイム（計算力のアップ）に特化
 h30～**新*木の学習タイム→ことばタイム（語彙力、文法力、1分間の活用）**
 h29～*金の朝自習タイム→国・算・理科・社会（自習課題）に変更

◎ 学力補充個別指導の時間→チャレンジタイム

- h28～水の6校時（毎週）：5・6年生
 木の6校時（第2,3,4,5週）：2・3・4年生
 *2日に分けることで複数教師による指導体制が可能
 h27～◎**土曜授業**（第2土曜日：年7回、21単位時間）別紙計画参照
 h28～◎**夏季、冬季休業中の希望者への個別の補充指導（図書室解放）**
 h27～***全学級で補充指導**、理科教室、絵画教室、作文教室などを実施
 *学期末PTAで保護者に説明、希望者を募り補充指導を実施
 ◎**家庭との連携（家庭学習の確保と習慣化）**
 h27～*PTA共通実践事項**ノーメディアタイム**のさらなる徹底
 家庭学習目安時間：学年×10+30分の確保と目標達成率の把握
 h28～**自作生活ノート（共通課題：漢字、日記、宅習、※自主課題）**
 h29～**個に応じた学習課題：復習プリント→保護者への理解と協力**

(2) 何を ※Web問題、Sプリ問題の活用

- 国語（読こと、書くこと、対こと・聞くこと）→過去問題、アシストシート等
 （漢字、文法）→これまでに習った漢字、文法問題
 ○ 社会（学習の要点まとめ、自作問題による練習）
 ○ 算数（テスト結果に基づく個に応じた問題練習、ドリル）
 ○ 理科（学習の要点まとめ、自作問題による練習）
 * 昨年度までの県学習定着度調査過去問題（12月中旬実施予定）

(3) どのように（指導方法、分担等）

- 学習タイム（担任、専科、管理職などTT体制）
 ○ 正課授業（国語、社会：担任、理科：専科、算数：担任と専科による習熟度別少人数指導）
 ○ チャレンジタイム（担任、専科、管理職などTT体制）

(4) その他

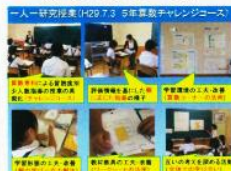
- ◎ **長期休業中の希望者を対象にした補充指導の実施**
 h27～○ 学校における教育活動、教育環境、掲示等の充実
 h27～○ 学力向上委員会（職員会議前に月1→取組とテスト結果報告）
 h28～◎ **生活ノート（低中高用）→家庭学習の確保（漢字、日記、宅習3点）**
 h28～◎ **練習前のスポ少放課後教室→生活ノートを活用して5団体実施中**
 h27～○ 学習のしつけ（発表話型、聞き方、姿勢など）の徹底、4月第1週間

取組の様子

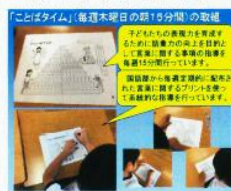
【習熟度別少人数指導】



（じゅくりコース）



（チャレンジコース）



【朝のことばタイム】



【長期休業中の補充指導】



【自作「生活ノート」】



【スポ少放課後教室】

学力向上策の定量化

◆授業

中学年算数科少人数指導(3クラス4展開)

週5回×45分×35週=**年間175単位時間**

※授業時数的にはどの学校も同じであるが
**指導体制面(指導率)、小学校高学年専科制、
 タブレット端末(デジタルドリル等)の活用の違いで学力に差が出るのではないかと?**

授業以外(学力補充指導)+αの時間

◆朝学習

ベーシックタイム:計算,漢字,文法等(15分)

毎週火木2回×15分×35週=**年間1050分**

◆土曜授業(学力補充の時間)

パワーアップタイム:習熟問題等(45分)

第2土曜月1回×45分×9回=**年間405分**

※年間合計1455分≒5日分の授業時間数

1週間分の授業時間数(分)45分×29コマ=1305分

◆家庭学習

自作家庭学習ノートを使用しての漢字・日記・

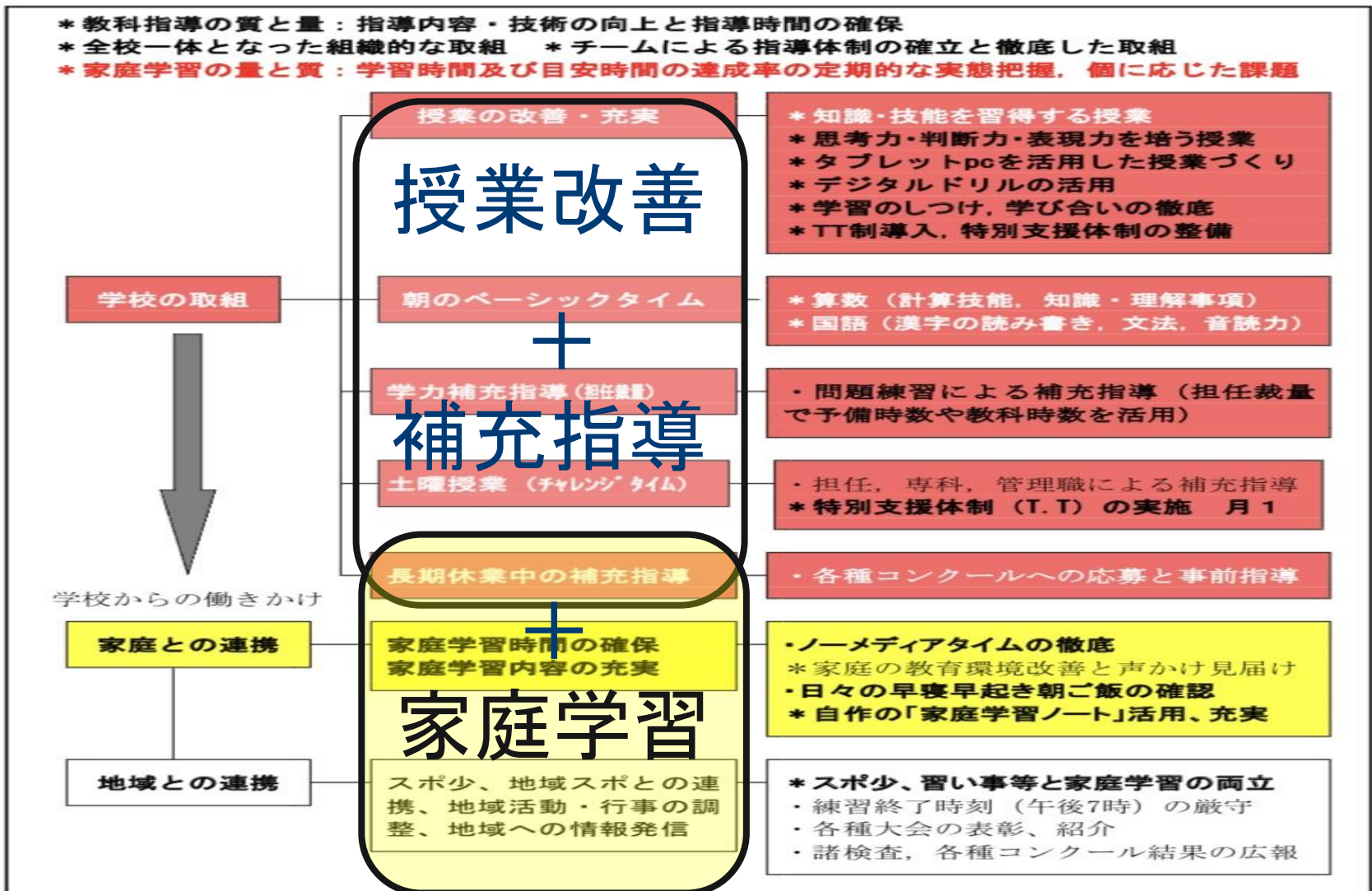
ローマ字・計算等の共通基礎課題(全学年)

月～金週5日×80分×35週=**年間14,000分**

≒50日分の授業時間数に匹敵する

学力を向上させること(q)とそのための取組(p)

$p \Leftrightarrow q$ 必要十分条件(同値)の関係になっているか？



R5年度鹿児島島学習定着度調査結果(確定値)

令和5年度	国語	社会	算数	理科	4教科正答率合計 / 平均正答率
R5本校					
市					
県					
県平均差	▲1.2	▲3.8	+1.0	+1.3	▲2.7 / ▲0.6
R4本校	77.9	78.8	67.9	68.1	292.7 / 73.2

【今後の学校としての取組】

- ・ 教科別、領域別の結果分析
- ・ 来年度の改善策の企画立案
- ・ 保護者への学力検査結果の説明
- ・ 学力向上策との相関分析
- ・ 未定着教科、領域の補充指導等

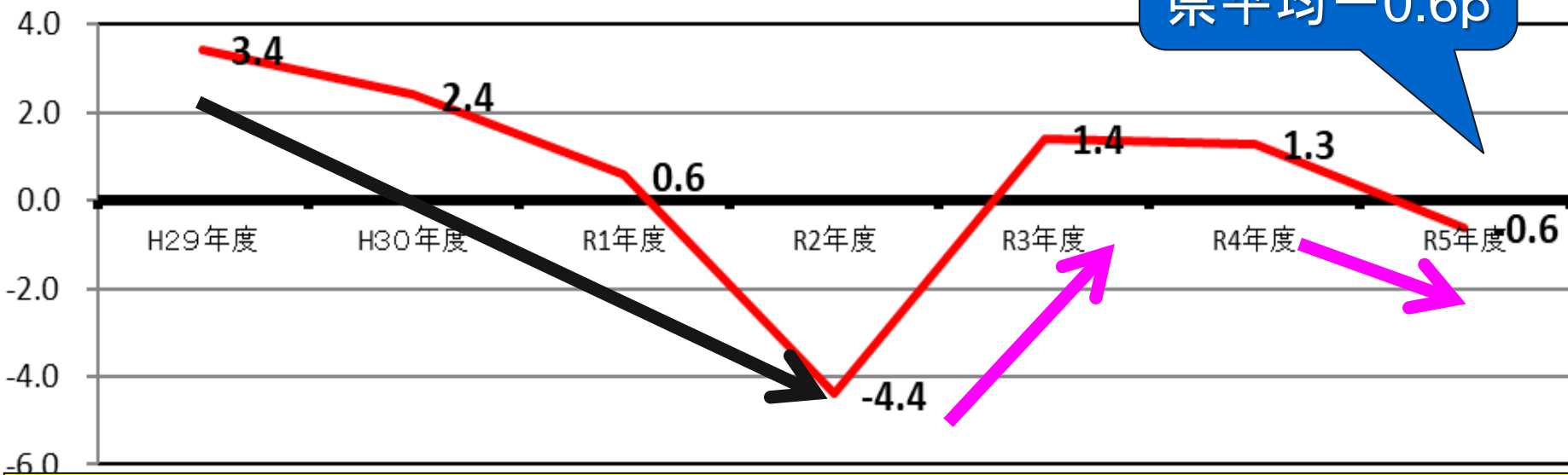
【分析・考察】

社会科の県平均差が▲3.8 pと大きく、その他の教科は±1p程度の差であった。今回A問題(主に知識)の取りこぼしが社会科や国語科で見られたことやB問題(主に活用)でのキーワードを落とした記述が見られたことに課題があったことが分析の結果、判明しました。

【小5】鹿児島学定調査結果の推移グラフ(H29～R5)

県差

前年比 -1.9p
県平均 -0.6p



H29～R1年度までは県平均以上であったがその差は下降傾向。R2においては県平均を4.4p下回る結果。R3年度は前年比5.8p上昇し、県平均を上回る結果となった。R4年度も同様に県平均を上回った。

R5年度は、県平均を4教科平均で**0.6P下回る**結果となった。今年度は全学年・学級でタブレット端末を活用した授業改善、補充指導等がスタートして学力向上策を**量的な側面**(朝学習、土曜授業など時間、回数を増加)と**質的な側面**(課題プリントとデジタルドリルを組み合わせさせた指導等)から見直しを図って取り組んできたが、県平均を下回る結果となった。

R5年度鹿学定結果分析と今後の対策

【今後の対策】

社会科の県平均差が▲3.8 p、その他の教科は±1p程度の差であった。今回A問題(主に知識)の取りこぼしが社会科や国語科で見られたことやB問題(主に活用)でのキーワードを落とした記述が見られたことに課題があったことが分析の結果、判明した。

この2年間、アナログとデジタルのよさを融合させた学習指導に重点をおき、タブレット端末を活用した授業改善、補充指導、家庭学習に積極的に取り組んできた。特に知識の定着にはデジタルではなくアナログによる手書きに重点を置いた指導を徹底していくこと、アナログとデジタルによる学習指導を明確な意図を持って確実に使い分けていくこと、保護者の協力を得ながら家庭学習時間の確保と目安時間の達成率を取っていくことなどを改善していく必要がある。

【子ども・教科・学級レベル】学習課題の重点の置き方

子ども・各教科・学級・学校全体の平均通過率(上位層:平均以上、中位層:平均並、下位層:平均以下)に応じた学習課題の与え方は？

課題の種類 階層	【基礎・基本】 読み・書き・計算等の 知識, 理解, 技能等 A問題(主に知識)	【応用力, 活用力】 自ら考える力 思考・判断・表現 B問題(主に活用)	【その他】 家庭・地域との連携 学校の教育環境等
上位層 子ども・ 教科・ 学級	○	◎ 重点	◎ノーメディアタイム、早寝 早起き朝ごはん ◎うち読 ◎家庭学習ノートの有効 活用
中位層 子ども・ 教科・ 学級	◎ 重点	○	◎スポ少、地域スポ、習い 事との両立 ※家庭学習の課題も個 に応じて与える。
下位層 子ども・ 教科・ 学級	◎ 重点	※どれだけ個別最適 化された学習課題を 与えられるか。	・共通課題:基礎問題 ・個別課題:応用問題 自主課題 ※デジタルドリルの活用

※知識はアナログで徹底

令和6年度 学力向上全体計画(案)

学力向上委員会 令和5年度版(最終版) 令和5年3月31日
NRT、鹿児島県学習定着度調査、全国学力・学習状況調査に向けた具体策 具体的内容、イメージ等

(2) 何を ※Web問題、学習プリント問題 R4.1月～デジタルドリル導入
○ 国語(数と、数と、数と) → 過去問題、アシストシート等

これまでの取組と今後の取組の方向性
【確かな学力】: 知育・校閲がしこく
1つの成果を達成して確かな学力を身に付けることを目指す

知識・技能等、記憶することはアナログ(手と口を使って覚える)での指導を徹底させる。

8:30～8:45 ②学朝 読書 読書 読書 読書 読書 読書 読書 読書 読書 R5～新規:低学年におけるデジタルドリルの効果的な活用法の検証

変更点1: 算数科少人数指導の学年をスライド(3, 4年生→4, 5年生)

変更点2: デジタルドリルをナビマに一本化

変更点3: 平日の家庭でのメディア2時間以内と家庭学習目安時間の確保(達成者率の把握)

変更点4: ノーメディアタイムなど家庭教育力アップ共通実践事項は学校主導から家庭主体へ

○小・中学校家庭学習の目安時間
○学年×10+30分(読書除く)
1年生40分+20分 2年生50分+10分
3年生60分 4年生70分
5年生80分 6年生90分
※中1:100分 中2:110分 中3:120分

【平日にスポイ、遊い、遊んでいる児童生徒の場合】
読書時間から減らすまでの減らし方シミュレーション

読書時間	家庭学習	読書時間
40分	10分	50分
50分	10分	60分
60分	10分	70分
70分	10分	80分
80分	10分	90分

家庭・住所 家庭一室別

※R3,7月から家庭教育力アップ共通実践事項として本格的にスタート

- ・ノーメディアタイム
- ・早寝早起き朝ごはん

継続◎ 家庭学習の学力の実態に基づき、定着率の低い知識・理解事項については、年間を通じて積み上げられるような様式に見直す。

(例)ローマ字が書けない→毎日ローマ字を書くための野線枠を追加→系統性を踏まえた様式に見直す。

(例)保護者の見届け枠、使った漢字数、友だちのよさを書く枠
ノーメディアタイム、早寝早起き朝ごはん等の振り返り枠



【参考資料】 家庭学習の 取組結果及び成果・課題

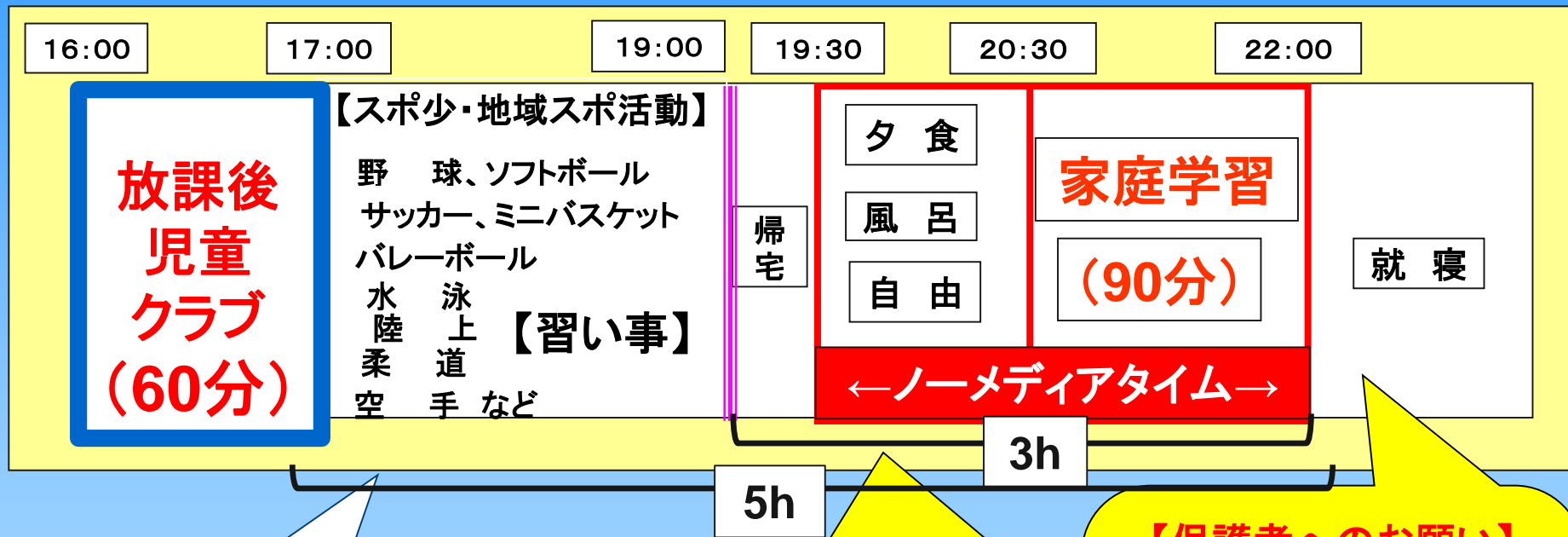
【R5後期のアンケート結果】

- ・学校評価アンケートと一緒に年2回（前期・後期）アンケートを取って取組状況を把握
- ・Googleフォームを活用して集約、結果分析
- ・アンケート結果に考察等を加えて学校HPに掲載してフィードバック

【共通実践事項の具体的取組】

⑤ 早寝早起き朝ごはん

【平日にスポ活動・習い事等をしている児童生徒の場合】



【スポ少等指導者】

- ・練習日(休養日2日)、練習時間(2時間程度)の厳守
- ・17時からスタート
- ・19時に終了、帰宅

【保護者へのお願い】

- ・夕食、風呂までの時間帯(19:30)
 - ・勉強を始める時刻(20:30)
 - ・就寝時刻(22:00)
- 3カ所で保護者から子どもへの声かけを確実にしてください。
- ※ノーメディアタイム

【保護者へのお願い】

- ・就寝(22:00までに)
 - ・翌朝起床(7:00までに)
 - ・朝食を食べさせる
 - ・登校(8:00までに)
- ※早寝早起き朝ご飯

「ノーメディアタイム」「早寝早起き朝ごはん」による効果

星峯西小学校家庭学習の目安時間

○学年 × 10 + 20分 (読書除く)

1年生 30分 + 20分 2年生 40分 + 10分

3年生 50分 4年生 60分

5年生 70分 6年生 80分

※中1: 90分 中2: 100分 中3: 110分

関連

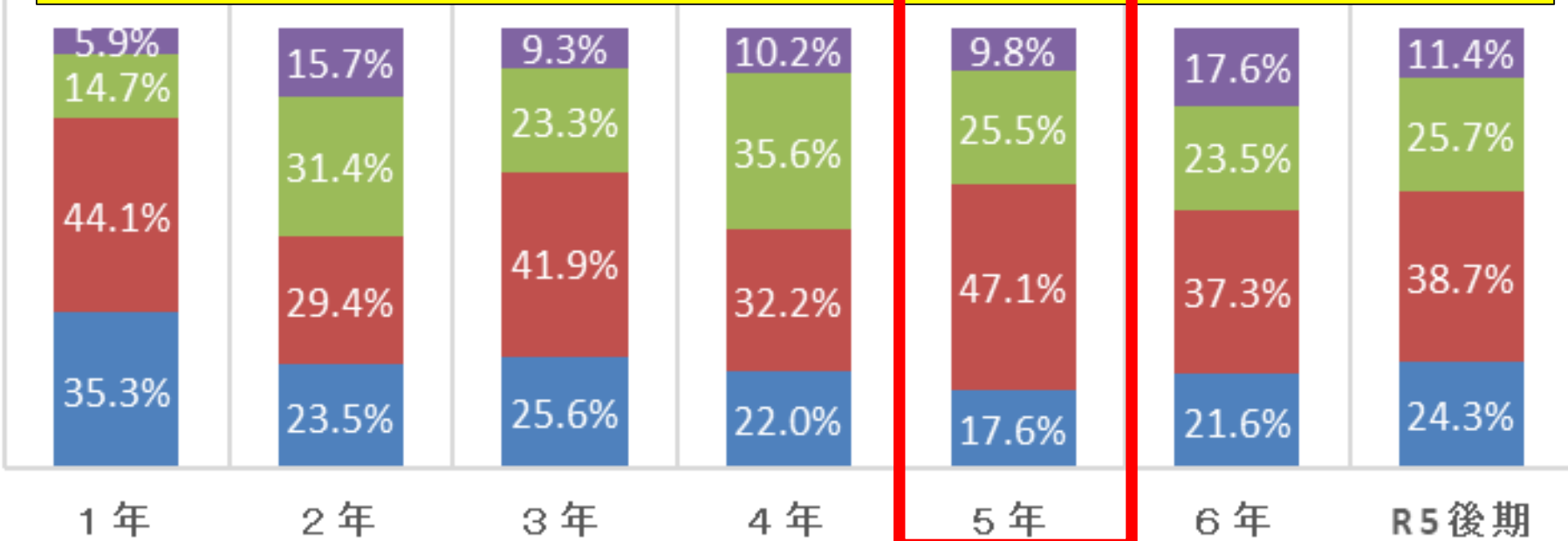
家庭学習60・90(ろくまる・きゅうまる)
運動………県P連の取組

R5年度後期 8 家庭学習の習慣化に努めましたか。 →ノーメディアタイム

【R4後期評価】	※この数値は1と2を合わせた数					
49.1	57.5	52.3	47.6	53.1	56.7	52.7

【R5前期評価】	63.1	64.8	65.7	58.6	58.9	62.5	62.4
-----------------	------	------	------	------	------	------	------

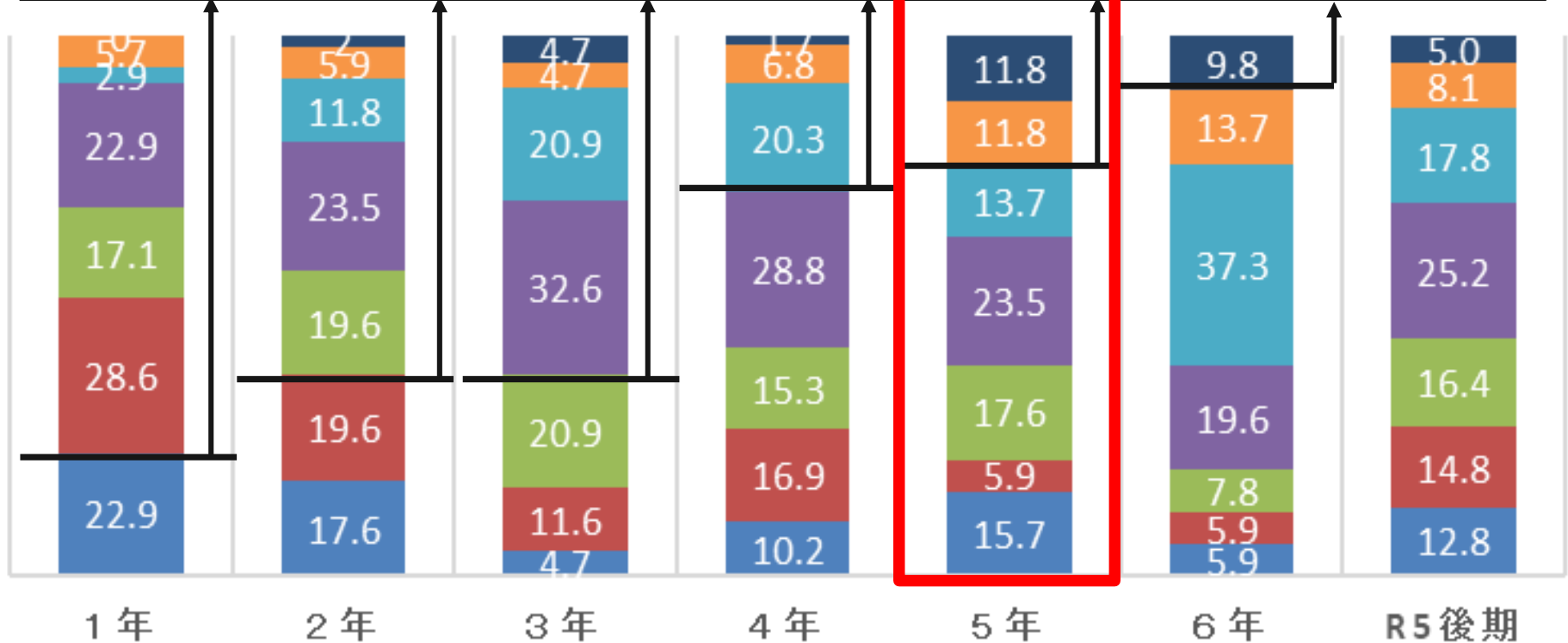
【R5後期評価】	79.4	52.5	67.5	54.2	64.7	58.5	63.0
-----------------	------	------	------	------	-------------	------	------



1, 2を合わせると学校全体で**63.0 % (前回比+0.6p)**。情報化社会でよりよく生きていくためにはデジタル機器を自分でコントロールする力を身に付けなくてはなりません。ノーメディアタイムはそのための家庭内ルールづくり、マナーなどを育てる取組です。学校と家庭が連携して継続的に取り組んでいく必要があると思います。

R5年度後期 15 平日の家庭学習時間

	※この数値は目安時間を達成した者の割合						
【R4後期評価】	83.3	68.1	37.5	25.8	17.9	21.1	42.3
【R5前期評価】	60.5	50.9	43.8	39.7	16.0	16.1	37.8
【R5後期評価】	77.1	62.8	62.8	28.8	23.6	9.8	44.1



【本校の家庭学習の目安時間】 学年×10+20分(読書時間除く)となっています。
 1年生:30分、2年生:40分、3年生:50分、4年生:60分、5年生:70分、6年生:80分
 目安時間を達成している児童の割合(44.1%前回比+6.3p)が増えています。家庭学習時間は、県・全国平均と比較して同程度か、やや少ない結果が出ています。家庭学習の習慣を身に付けていきたい。

終